
普通の男と特殊な少女の冒険

織田慶次

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普通の男と特殊な少女の冒険

【Nコード】

N4778M

【作者名】

織田慶次

【あらすじ】

兄弟で旅に出た俺たちは倒れていた、女の子を見つけた。

第一話 旅に出よう(前書き)

完全にどっかのゲームの世界です。

第一話 旅に出よう

俺たち二人はごく普通の街を歩いている。

「お兄ちゃんこれからどうするの？」

そう俺たちは兄弟関係だ、兄の俺がオツトー、弟がソツトー、どちらも本当の名ではないけどこちらの方が言いやすいからこう呼んでいる。

「特になし」

俺はそう答えた。

何故俺たちが旅をしているかというと単に金がなかったただけで深い意味がない。(モンスターを倒すと何故か金が出る)

「あ、お兄ちゃんあそこに誰が倒れてる！」

弟がめんどくさいものを見つけてしまった。

「気のせいだ」

俺も見たか、やっぱり倒れている。全身黒い服で覆われていてロシア風？の帽子も被っている。背丈は小学四年生くらいだろう。

「お、お兄ちゃん。助けて」

弟が震えた声で言う。

「どうした」

「足を掴まれた」

弟の足元を見ると確かに倒れている子が弟の足をつかんでいた。

「待てー」

「「うわー」と、いうことでいきなり女の子を助けることになりました。腹が減っていたらしく今、レストランにいる。

「て、なんで無視しようとした」

女の子は食いなからそして怒った声で

「いや、そのめんどくさそうだったから。それでなんて倒れてたんだ」

「はあ。あきれれるわ。腹が減ってたからに決まってるじゃん」

よく見るとけっこうかわいい顔をしている幼さはまだ残っているけどやっぱりかわいい。でも言ってることけっこう厳しい。

「ねえ、聞いている?」

「ん、何?」

「聞け、人の話を。まあいいで、何やってるの」

いつのまにか飯を食い終わってパフェを食っていた。

「え、俺たち。俺たちは兄弟で旅に出てるんだ。あ、そういえば自己紹介をしてなかったな。俺はオットー、隣が弟のソッター」

右にいる弟をさしながら言うと弟はコクンと頷いた。

「変な名前ね」

ずばつと言われてしまった。

「まあ本当の名前じゃないからな。それにこっちのほうが言いやすいからな」

「ふーん。で本当の名前は?」

「・・・忘れた」

「はへ?忘れた。えええ」

かなり驚かせてしまったらしい。

「なんでそんなことを忘れるんだよ!」

「思い出したら言うからそれまで待て」

「わかった。次は私ね、私の名前はミラコン、外国人だからよろしく。職業は完全魔法使い」

小さいけど外国人らしい。

「完全魔法使いつて何?」

「そんなことも知らずに旅に出るつもりなの。ダメね、完全魔法使いは全ての魔法を覚えることができる少ない職業だよ。でも今は少ししか覚えてないから弱いけど」

「たとえば?」

「えっと、電気ショック(弱)、メテオ、薬草創造(欠片)、ガラスの壁、まだこれしか覚えてないけど」

聞いてもよくわからなかった。

第一話 旅に出よう(後書き)

ヒロインの技の説明

電気ショック(弱)・攻撃力はないけど敵を少し行動不能にする。

メテオ・威力は弱くどこに落ちるか分からない隕石を落とす。

薬草創造(欠片)・薬草をほんの少しだけ薬草を作る。薬草は少しだけ体力を回復する。

ガラスの壁・割れやすい壁で防御する。割れると守られていた人がダメージを食らう。敵に使うこともできる。

魔法を使うと疲れる。

第二話 弟は逃げだした(前書き)

「このゲームのRPGと言ってますね」

第二話 弟は逃げだした

「聞いてもわかりませんでした」

「まあ予想通りだけどね」

なんかイラツとすることを言われたような。

「お兄ちゃん、友達と用事があるから帰ってるねー」

「おいつちよつと待て」

兄の言うことなど気にせずにはさつて行く弟、お金も払わないで・・・。

「弟さん、行っちゃたね」

あいつは絶対にこの女と一緒にいたくないだけだ。

「でっこれからどうするの?」

「何も決めてないけど、もう疲れた。だから宿に行こう!」

元気よく言ったあの女はもう店の外に出ていた。あの女が食った金は全て俺が払うことになった。

「こつちこつち」

食った後のあの女は元気よすぎだ。

あの女が泊まりたいという宿はかなり見た目からやすっぱそつだ。

(やすいからいいんだけどね)

「やつときた。さあ入ろう」

宿の中は以外ときれいだつた。

「じゃあ、あそこでボーとしてる男とツインルームね」

はっ?なんか勝手に部屋を決められてしまった。それも同じ部屋で。

「分かりました。では案内するんで着いて来てください」

部屋に案内された。

部屋に着いた、正直、言つてかなり狭い。

「別々の部屋になると2000円になるけど一緒に部屋だと1500円になるからお得だよねー」

「どつでもいい」

「そっかなー。けっこう大切なことだと思っただけど」
「分かりました。疲れたから眠らせてくれ」
「えええー。もっとおしゃべりしたい」
「明日にしろ。おやすみ」
「つまんない」

その後、俺は気絶するように寝た。

次の日

「おいっ起きろ。おい」
俺はあいつより早く起きてあいつを起こすことにした。
「うーん。まだ寝てる」
「だめた。起きろ」
「あつそっ起きろ」
「あつそっ起きろ」
「あつそっ起きろ」

朝のこいつの第一声はおはようではなかった。

「面白いことがあってね」

「ちょっと待てそれっていつの話？」

「昨日の真夜中」

こいつは危険なことをしたという自覚はなさそうだ。

「それでね、面白いことはね・・・」

ここからはミラコンの回想です。

「眠れない。そうだ外に行こう」

とっいうことで外に出たミラコンは細い裏道を見つけて面白そうだったから入ることにした。

ずっとその道を歩いていると変な店に入ることができた。

その店のごついおっさんたちがたくさんいた。

「お嬢ちゃん、ここはおまえのくる場所ではない！」

そう言いながら襲ってきた。

魔法ですぐにやっつけたけど。

そこで金を奪っていたら一人はどうしても奪われたくないらしく代

わりに魔法を覚えてもらった。

「それで教えてもらったのかサーチ能力！」

「すげー危ない目にあっているのに楽しんでる、ある意味怖い。」

「よしっ新しい魔法も覚えたいし、さっ行こう」

「えっ？どっどこに」

第二話 弟は逃げだした（後書き）

技の説明

サーチ・敵の能力などが分かる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4778m/>

普通の男と特殊な少女の冒険

2010年10月10日04時18分発行